

## 第4編 成果と課題

### 【目次】

|      |                          |     |
|------|--------------------------|-----|
| 第1章  | 沼田市教育行政方針評価（学校教育）        | 149 |
| 第2章  | 第12次教育水準向上研究＜第4年次＞の成果と課題 | 154 |
|      | 令和5年度の研究指定等              | 155 |
| 編集後記 |                          | 155 |

# 令和5年度沼田市教育行政方針評価（学校教育）

|              |  |
|--------------|--|
| 【評価について】     |  |
| 1 評価者（全126名） | ○各小中学校6名（校長・教頭・教務主任・研修主任・職員代表2名）<br>○各幼稚園 3名（園長・職員代表2名）              |
| 2 評価項目       | ○全44項目（沼田市教育行政方針「重点施策1」について）   |
| 3 評価方法       | ○自校・園の取組について「実現度」による評価<br>（4：できている 3：おおむねできている 2：あまりできていない 1：できていない） |
| 4 評価平均について   | 太字…3.4以上 網掛け…3.0未満 青字（下線）…前年度より上昇したもの                                |

## 1. 「重点施策1」について

### (1) 学校(幼稚園)経営の充実

| No. | 教育行政方針(評価の観点)   | 評価平均        | 評価の割合 |       |       |      |
|-----|---|-------------|-------|-------|-------|------|
|     |   |             | 4     | 3     | 2     | 1    |
| ア   | 校長(園長)のリーダーシップによる経営方針の明確化と各主任を中心とした全校的な組織体制の確立  | <b>3.56</b> | 57.1% | 42.1% | 0.8%  | 0.0% |
| イ   | 子どもを守り育てる実効的な危機管理体制の充実（「セーフティ沼田」※）  | <b>3.56</b> | 55.6% | 44.4% | 0.0%  | 0.0% |
| ウ   | ガイドラインを踏まえた働き方改革に向けた労務管理体制の整備と具体的な取組の推進   | <u>3.28</u> | 37.3% | 54.0% | 7.9%  | 0.8% |
| エ   | 学びの連続性を踏まえた幼小中連携の充実（幼小中連携※）   | 3.08        | 19.0% | 69.8% | 11.1% | 0.0% |
| オ   | 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進とカリキュラムマネジメントの充実  | <b>3.40</b> | 40.5% | 59.5% | 0.0%  | 0.0% |
| カ   | 自校園の喫緊の教育課題解決に向けた校内(園内)研修の計画的な実施  | <b>3.59</b> | 60.3% | 38.1% | 1.6%  | 0.0% |
| キ   | 信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保  | <b>3.68</b> | 69.8% | 29.4% | 0.0%  | 0.8% |
| 考察  | <p>昨年度と同様に、7項目中5項目の評価平均が3.4以上であった。「キ」は今年度も高い評価であったが、第12次の4年間を通して見ても高い評価を維持してきたことから、各学校園が「信頼される学校」を目指して、教職員の資質向上や服務規律の確保に力を入れていることがうかがえる。「ア」については、自由記述の中でも肯定的な回答が多数を占め、今年度も、各学校園の校長・園長がリーダーシップを発揮して明確な経営方針を具体的に示し、各主任が中心となった組織的な取組を推進することができたと考えられる。また、数値としては3.4には届いていないが、「ウ」については年次を追うごとに評価平均値が上昇しており、働き方改革に向けた労務管理体制の整備や具体的な取組が着実に進められてきていることがうかがえる。「エ」については、学びの連続性をさらに意識し、連携を深めていくことが大切であり、今後の充実が望まれる項目である。</p> |             |       |       |       |      |

### (2) 家庭や地域社会、関係機関等との連携・協働

| No. | 教育行政方針(評価の観点)  | 評価平均        | 評価の割合 |       |      |      |
|-----|--|-------------|-------|-------|------|------|
|     |  |             | 4     | 3     | 2    | 1    |
| ア   | 家庭や地域社会と連携・協働した教育課程の編成・実施・評価（「社会に開かれた教育課程」の実現）                 | 3.33        | 34.9% | 62.7% | 2.4% | 0.0% |
| イ   | 各種教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用                                     | <b>3.51</b> | 52.4% | 46.0% | 1.6% | 0.0% |
| ウ   | 不登校や問題行動、貧困問題などの生徒指導や特別支援教育等において、専門性をもった関係機関との連携や組織的・協働的な課題の解決 | <b>3.44</b> | 46.8% | 50.0% | 3.2% | 0.0% |

|    |  |
|----|--|
| 考察 | <p>特に「イ」については昨年度より評価平均が大きく上昇した。コロナ禍では難しかった外部との交流を含めた様々な活動が可能となったこととコミュニティ・スクール設置の動きにより、地域の人的・物的資源の積極的活用が図られてきている。今後も、コミュニティ・スクールのメリットを生かした取組や「ぬまた未来創造学」を推進していく中での充実が望まれる。「ウ」については、SC、SSW、自立支援アドバイザーや、関係機関などから専門的な助言を得るなど、各学校園ともに積極的な連携、課題解決に向けた組織的な対応を継続できている様子がうかがえる。</p> |
|----|--|

### (3)社会の変化に対応する教育の充実

| No. | 教育行政方針(評価の観点)  | 評価平均 | 評価の割合 |       |       |      |
|-----|--|------|-------|-------|-------|------|
|     |  |      | 4     | 3     | 2     | 1    |
| ア   | 学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育の充実(キャリア・パスポートの活用)   | 3.16 | 22.2% | 71.4% | 6.3%  | 0.0% |
| イ   | 郷土の豊かな自然、先人たちが築いた歴史や文化に触れ、郷土愛をはぐくみながら地域を誇りに思う教育の推進(「沼田大好き」ふるさと学習の推進※)  | 3.36 | 41.3% | 53.2% | 5.6%  | 0.0% |
| ウ   | 新たな英語教育の在り方を踏まえ、小学校から中学校への学びの連続性や指導の系統性を意識した、外国語活動及び英語科授業の推進   | 3.26 | 33.3% | 59.2% | 7.5%  | 0.0% |
| エ   | 環境教育の視点を踏まえた体験的活動の実施と各教科等における指導の継続   | 3.02 | 17.5% | 69.0% | 11.9% | 1.6% |
| 考察  | <p>「イ」については評価平均が昨年度から上昇した。4年間通して少しずつではあるが上昇傾向にある。(2)の「イ」と同様に地域資源を活用しながら、コロナ禍においても各校園で工夫した取組が進められてきたことがうかがえる。自由記述には、それぞれの項目についてよかった点や今後の課題について挙げられていたが、(3)においてはいずれも「2」の割合がやや高い。全教職員の共通理解の下、各学校園の実情に応じた取組を推進していく必要がある。</p> |      |       |       |       |      |

### (4)確かな学力の育成

| No. | 教育行政方針(評価の観点)   | 評価平均 | 評価の割合 |       |      |      |
|-----|---|------|-------|-------|------|------|
|     |   |      | 4     | 3     | 2    | 1    |
| ア   | 各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想   | 3.44 | 44.2% | 55.8% | 0.0% | 0.0% |
| イ   | 児童生徒にめあてと見通しをもたせたり、学びを振り返って次につなげたりする授業づくりを意識するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実   | 3.47 | 47.5% | 51.7% | 0.8% | 0.0% |
| ウ   | 学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」などの育成を図るための学習活動の充実   | 3.18 | 19.2% | 79.2% | 1.7% | 0.0% |
| エ   | 1人1台端末等のICT環境を効果的に活用した学習活動の工夫   | 3.54 | 54.2% | 45.8% | 0.0% | 0.0% |
| オ   | 学力検査等の分析や日常的的確な実態把握の基、各教科における個に応じたきめ細かな指導の充実  | 3.38 | 40.0% | 57.5% | 2.5% | 0.0% |
| カ   | 家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫と保護者との連携   | 3.23 | 26.7% | 69.2% | 4.2% | 0.0% |
| 考察  | <p>全体的に評価平均が上昇した昨年度に比較すると、今年度は全体的に評価平均は下がっているものの、数値としては微減であり、大きな傾向の変化は見られない。自由記述からは、3.4以上であった「ア」「イ」「エ」の成果に関する記述が多く、ICTの効果的な活用、単元構想や授業づくりなど、各学校が児童生徒の学力向上に向けた具体的な取組を校内研修等を通じて組織的に推進している様子がうかがえる。また、「カ」については、1人1台端末の活用も含めて実践、検討している学校も見られる。「4」の評価が他に比べて低い傾向にある「ウ」については、第2年次以降の沼田市教育研究所の班別研修においても取り上げられているところであり、これらを参考にした取組も望まれる。</p> |      |       |       |      |      |

## (5)豊かな心の育成

| No. | 教育行政方針(評価の観点)  | 評価平均 | 評価の割合 |       |      |      |
|-----|--|------|-------|-------|------|------|
|     |  |      | 4     | 3     | 2    | 1    |
| ア   | よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために道徳科の授業を要とした教育活動全体を通して行う道徳教育の推進   | 3.35 | 37.0% | 61.4% | 1.6% | 0.0% |
| イ   | 「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の工夫  | 3.18 | 20.8% | 75.8% | 3.3% | 0.0% |
| ウ   | 「沼田市人権教育推進方針」に基づく教育活動全体を通じた組織的な人権教育の推進   | 3.39 | 41.7% | 55.9% | 2.4% | 0.0% |
| エ   | 体験的な学習活動やボランティア活動を通して、互いに協力し合おうとする態度の育成を目指した福祉教育の推進  | 3.30 | 34.9% | 60.3% | 4.8% | 0.0% |
| オ   | 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識した特別活動の充実  | 3.12 | 14.2% | 83.3% | 2.5% | 0.0% |
| カ   | 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実(「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用)(「児童生徒の命を守り、育てる教育」※)  | 3.30 | 33.3% | 63.5% | 3.2% | 0.0% |
| キ   | いじめを許さない心を育てるための児童生徒主体のいじめ防止活動の充実  | 3.59 | 59.2% | 40.8% | 0.0% | 0.0% |
| 考察  | <p>評価の高かった昨年度を上回った項目はなく、一昨年度と同程度の評価であった。「キ」の評価は継続して高く、今年度も引き続き児童生徒主体の充実したいじめ防止活動が展開された。また、その他の項目においても、自由記述から、SOSの出し方教育、自己肯定感を高める活動、がん教育等、各学校園での取組が充実している様子がうかがわれる。「ア」「イ」については、評価がやや低くなった。引き続き、学校教育全体を通じた道徳教育の推進と道徳授業の充実を図る必要がある。「オ」については約8割が「3」の評価であり、学級活動の授業改善を含めた特別活動の充実を推進していくことが大切である。</p> |      |       |       |      |      |

## (6)健やかな体の育成

| No. | 教育行政方針(評価の観点)  | 評価平均 | 評価の割合 |       |       |      |
|-----|--|------|-------|-------|-------|------|
|     |  |      | 4     | 3     | 2     | 1    |
| ア   | 子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実、及び感染症対策の徹底  | 3.62 | 61.9% | 38.1% | 0.0%  | 0.0% |
| イ   | 栄養教諭等を活用した食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育の充実  | 3.08 | 28.6% | 52.4% | 17.5% | 1.6% |
| ウ   | 「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進   | 3.39 | 40.5% | 57.9% | 1.6%  | 0.0% |
| エ   | 中学校における部活動の適切な指導の実施と効果的な休養日の設定(教育部活※)  | 3.70 | 77.8% | 18.5% | 0.0%  | 3.7% |
| オ   | 子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進  | 3.39 | 41.3% | 56.3% | 2.4%  | 0.0% |
| 考察  | <p>養護教諭、安全主任、体育主任等を中心に、組織的に、心身の健康の保持増進や、実効的な安全教育の推進が図られていることが自由記述からもうかがえる。「ア」については、引き続き高い評価となり、必要な感染症対策を行いながら教育活動を継続することができた。「エ」も同様に引き続き高い評価であり、部活動の適切な実施が定着しつつあると考えられる。「イ」については、他の項目より低めではあるものの昨年度より評価が高くなり、初めて3.0以上となった。栄養教諭等も活用しながら積極的に食育を推進していくことが求められる。「オ」に関しては、避難訓練や登下校等、各学校園の実情に応じた取組や課題についての自由記述が複数あり、引き続き、幼児児童生徒の危険予測と危険回避能力を高める指導を継続していく必要がある。</p> |      |       |       |       |      |

## (7) 生徒指導の充実

| No. | 教育行政方針(評価の観点)  | 評価平均 | 評価の割合 |       |      |      |
|-----|--|------|-------|-------|------|------|
|     |  |      | 4     | 3     | 2    | 1    |
| ア   | 日々の授業や行事など学校生活全体における、生徒指導の3つの機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)を生かした指導・支援   | 3.50 | 50.0% | 50.0% | 0.0% | 0.0% |
| イ   | いじめ防止基本方針を踏まえた未然防止・早期発見・適切な対応・認知と解消の徹底   | 3.64 | 65.1% | 34.1% | 0.8% | 0.0% |
| ウ   | 不登校の未然防止や不登校傾向児童生徒への初期対応の徹底と教育相談活動の充実  | 3.51 | 52.4% | 46.0% | 1.6% | 0.0% |
| エ   | インターネットの利用にかかわるトラブルを防ぐ情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動の推進(「沼田市SNSルール」※)   | 3.26 | 31.2% | 64.0% | 4.8% | 0.0% |
| 考察  | <p>今年度も多くの項目で高い評価が得られた。管理職や生徒指導主事・主任を中心とした全教職員による組織的な対応、外部機関との連携、改訂された生徒指導提要进行を踏まえた指導・支援が推進されていることがうかえる。また、校則や学校のきまり等の見直しも行われ、市内全小中学校のHPで公開している。「イ」「ウ」については、引き続き未然防止に努めるとともに、不登校においては、教育支援センターやフリースクールとの連携を図りつつ、児童生徒、保護者に寄り添った適切な対応を継続していく必要がある。「エ」については、外部機関と連携した情報モラル講習会の実施や、児童生徒が主体となったSNSルールの啓発、家庭との連携など行われているが、ルールの見直しも含め、今後も各学校の実情に応じた具体的な取組を進めていく必要がある。</p> |      |       |       |      |      |

## (8) 特別支援教育の充実

| No. | 教育行政方針(評価の観点)   | 評価平均 | 評価の割合 |       |      |      |
|-----|---|------|-------|-------|------|------|
|     |   |      | 4     | 3     | 2    | 1    |
| ア   | 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内特別支援体制の強化と交流及び共同学習の推進   | 3.49 | 52.4% | 44.4% | 3.2% | 0.0% |
| イ   | 個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた中・長期的な支援の充実   | 3.42 | 47.7% | 46.9% | 5.5% | 0.0% |
| ウ   | 通常学級における気になる子どもに対する指導の工夫と適切な対応  | 3.36 | 40.0% | 56.7% | 2.5% | 0.8% |
| 考察  | <p>今年度もこれまでと同様に、全項目において比較的高い評価となった。特別支援教育コーディネーターが中心となり、日々の情報共有と共通理解が図られているとともに、校内教育支援委員会の計画的な実施、必要に応じたケース会議の開催、外部機関との連携、研修の実施等により、支援の充実が図られている様子が自由記述にも多く挙げられている。今年度、中学校においても通級指導教室が設置され、巡回指導の実施に向けての検討も進めている。年々、特別な支援を必要とする幼児児童生徒は増加傾向にあり、個々の障害への理解、適切な対応や支援の方法、支援体制の強化等、より一層の充実が求められる。</p> |      |       |       |      |      |

## (9) 読書活動の充実

| No. | 教育行政方針(評価の観点)   | 評価平均 | 評価の割合 |       |       |      |
|-----|---|------|-------|-------|-------|------|
|     |   |      | 4     | 3     | 2     | 1    |
| ア   | 学校や家庭における読書習慣づくりの推進及び読書活動の充実(「家族で本を読みましょ」※)   | 3.10 | 23.0% | 64.3% | 12.7% | 0.0% |
| イ   | 図書資料を活用した学習活動を充実させるための学校図書館の環境整備と沼田市立図書館との連携  | 3.03 | 23.0% | 57.9% | 18.3% | 0.8% |
| 考察  | <p>評価平均は昨年度までとほぼ同等であり、やや低い状況が続いている。自由記述からは、朝読書の継続、教職員や図書委員会による本の紹介やイベントの開催、保護者やボランティアによる読み聞かせ、家庭との連携、図書室の整備、沼田市立図書館の移動図書の活用等、各学校園の実情に応じた工夫や継続した取組により成果を上げている学校園が見られる。特に、幼稚園においては評価が非常に高く、積極的な取組が推進された。一方で、学校間、また、幼稚園、小学校、中学校とで、取組(評価)の差も見られる。各学校園の状況や発達の段階に応じた働きかけを行い、幼児児童生徒の主体的な読書活動を支援し、読書環境を整備する必要がある。</p> |      |       |       |       |      |

## (10)教育研究所の充実

| No. | 教育行政方針(評価の観点)  | 評価平均 | 評価の割合 |       |      |      |
|-----|--|------|-------|-------|------|------|
|     |  |      | 4     | 3     | 2    | 1    |
| ア   | 第12次沼田市教育水準向上研究の具現化を目指した教師の資質向上に資するための実践的な班別研究の推進  | 3.33 | 35.8% | 60.8% | 3.3% | 0.0% |
| イ   | 不登校や障害等、発達の課題を抱える子どもやその保護者に対する教育相談の推進と関係機関との連携   | 3.45 | 47.0% | 51.0% | 2.0% | 0.0% |
| ウ   | 教育支援センター「きずな」や「ことばの教室」における各校園との連携を生かした組織的かつ継続的な支援体制の確立   | 3.45 | 47.6% | 50.0% | 2.4% | 0.0% |
| 考察  | <p>全項目において比較的高い評価が得られた。第12次全体を通して同様の高い評価となっている。特に「イ」「ウ」については、自由記述にも、学校の状況を踏まえた対応、児童生徒の実態に応じた柔軟なきめ細かな支援、保護者への適切な助言や支援がなされ、「きずな」が児童生徒が安心して過ごせる場所となっていることが書かれている。また、「ことばの教室」、自立支援アドバイザーの活用も効果的であり、子どもと保護者、学校にとっても、大きな力となっている。「ア」の班別研究について、今年度は、(4)「ウ」に関わる「問題発見・解決能力」の育成について実践研究がなされた。</p> |      |       |       |      |      |

## (参考)評価平均の推移

| 教育行政方針(評価の観点)   | 年次毎の評価平均 |      |      |      |
|---|----------|------|------|------|
|   | 第1年次     | 第2年次 | 第3年次 | 第4年次 |
| <b>基本方針1(教育水準の向上を目指す学校教育の充実)</b>  |          |      |      |      |
| 一人一人のよさを大切にし、社会の変化に主体的に関わり、未来社会を切り拓く力を身に付けた子どもを育てるために、「第12次沼田市教育水準向上研究」を中心に、家庭・地域社会との連携を図りつつ、全市をあげて教育実践に努めます。 | 3.32     | 3.38 | 3.41 | 3.37 |

# 第12次沼田市教育水準向上研究（第4年次）の成果と課題

## 1 評価結果

| 領域    | No. | 学校教育の重点   | 評価平均 | 評価の割合 |       |      |      |
|-------|-----|---|------|-------|-------|------|------|
|       |     |   |      | 4     | 3     | 2    | 1    |
| 確かな学力 | ア   | 各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想                                 | 3.44 | 44.2% | 55.8% | 0.0% | 0.0% |
|       | イ   | 児童生徒にめあてと見通しをもたせたり、学びを振り返って次につなげたりする授業づくりを意識するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実 | 3.47 | 47.5% | 51.7% | 0.8% | 0.0% |
|       | ウ   | 学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」などの育成を図るための学習活動の充実                               | 3.18 | 19.2% | 79.2% | 1.7% | 0.0% |
| 豊かな心  | エ   | 「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の工夫   | 3.18 | 20.8% | 75.8% | 3.3% | 0.0% |
|       | オ   | 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識した特別活動の充実   | 3.12 | 14.2% | 83.3% | 2.5% | 0.0% |
|       | カ   | いじめを許さない心を育てるための児童生徒主体のいじめ防止活動の充実   | 3.59 | 59.2% | 40.8% | 0.0% | 0.0% |
| 健やかな体 | キ   | 子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実、及び感染症対策の徹底                                     | 3.62 | 61.9% | 38.1% | 0.0% | 0.0% |
|       | ク   | 「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進                                | 3.39 | 40.5% | 57.9% | 1.6% | 0.0% |
|       | ケ   | 子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進   | 3.39 | 41.3% | 56.3% | 2.4% | 0.0% |

## 2 結果の考察

### (1) 確かな学力

全体的に評価平均が上昇した昨年度に比較すると、今年度はやや下がっているものの、傾向や数値の大きな変化は見られない。また、自由記述や校内研修報告書、訪問、授業公開、学力向上フォーラム等からは、今年度も各学校において、校内研修主任や学力向上コーディネーターが中心となり、組織的・計画的な研修や授業改善、学力向上対策が推進されたことがうかがえる。授業においては、ICTを効果的に活用することを意識しつつも、各教科等の学びの本質に迫ることを大事にし、ねらいを明確にし、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想を行うことや、「めあて」「見通し」「振り返り」を各単位時間に位置付けること、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実を図ることなどを意識しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に取り組めた。しかし、どの項目も「4」より「3」の評価をした割合が高いことから、より一層の充実が望まれる。

### (2) 豊かな心

全体的に評価が高かった昨年度を上回った項目はなく、第1、2年次と同程度の評価であった。特に「カ」の評価が引き続き高く、自由記述からも各学校が児童生徒主体のいじめ防止活動を重視していることがうかがえる。いじめ防止子ども会議でも、各校の創意工夫をこらしたいじめ防止活動の様子について、児童生徒から報告がなされた。「エ」については、やや評価が下がっており、教科化から数年が経過したが、道徳の授業の「質的転換」から「充実」に向けての取組が求められる。「オ」については、約8割が「3」の評価であり、学級活動の授業改善を含めた特別活動の充実を引き続き推進していく必要がある。

### (3) 健やかな体

3つの項目それぞれにおいて、各主任が中心となり組織的な取組が進められていることがうかがえる。特に「キ」については引き続き高い評価となり、心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実を図るとともに、必要な感染症対策を行いながら教育活動を継続することができた。「ク」に関しては、教科体育の充実に加え、業前や行間の時間を生かした運動の機会づくり、家庭との連携、学校保健委員会の取組など、各学校園で創意工夫をこらした取組がなされた。「ケ」に関しては、避難訓練や登下校の安全確保についての取組や課題についての自由記述が複数あり、引き続き、子どもたちの危険回避能力を高める指導を継続していく必要がある。

## 令和5年度の研究指定等

| 指定・委託元及び年度        | 事業名                  | 学校名等   |
|-------------------|----------------------|--------|
| 令和5年度<br>群馬県教育委員会 | がん教育総合支援事業           | 薄根小学校  |
| 令和5年度<br>群馬県教育委員会 | がん教育総合支援事業           | 薄根中学校  |
| 令和5年度<br>群馬県教育委員会 | 各教科等授業改善プロジェクト       | 沼田小学校  |
| 令和5年度<br>群馬県教育委員会 | 各教科等授業改善プロジェクト       | 沼田南中学校 |
| 令和5年度<br>群馬県教育委員会 | 発達障害のある児童生徒等に対する支援事業 | 沼田中学校  |

## 編 集 後 記

本年度も、多くの皆様にご協力いただき、本研究紀要を完成させることができました。

各研究部会の取組、小中学校・幼稚園の校内・園内研修や教育水準向上授業研究会等の成果について改めて拝見すると、各学校・園の教育課題に対し、教職員が真摯に向き合い研鑽を積み、子供たちのために尽力されている様子が伝わってまいります。また、上記のように、本年度も研究指定等の事業が行われ、目指す子供の育成に向けて、学校・園全体で様々な取組が実践されました。これらの各学校・園での取組は、その成果が子供たちの変容となって表れただけでなく、他の学校・園にとっても大変参考となる貴重な実践であったと確信しております。

本年度は、第12次沼田市教育水準向上研究のまとめとなる4年次でしたが、本研究の主題である「社会の変化に主体的に関わり、未来社会を切り拓く力を身に付けた子供の育成」に向けて、沼田市の教職員で学校教育の重点を共有し、一丸となって取り組むことができました。本年度は「沼田市・先生の日」では子供たちの権利について学び、夏季研修会では、「令和の日本型学校教育を担う『学び続ける教職員』であるために」をテーマにパネルディスカッションを行い、学力向上対策フォーラムでは、学力向上のためにできる取組を具体的に協議するなど、情報共有や学校間のつながりを意識することができました。また、学校・園を訪問させていただき、子供たちのより学びや成長を支える努力や工夫を実感するとともに、明るい表情で周囲の人々と関わり、生き生きと学ぶ子供たちの姿がとても印象的で、「自律」と「共育」を感じることができました。

結びに、研究の主体となって熱心に取り組まれた各幼稚園・小中学校の皆様、研究計画の作成・評価に貴重なご意見をくださった研究推進委員会の方々、ご指導・ご協力いただきました関係各方面の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げ、編集のまとめといたします。

令和6年3月 吉日  
沼田市教育委員会  
指導主事 星野 優太

\*本冊子は、沼田市 Web ページに公開しています。URL (<https://www.city.numata.gunma.jp/>)